

採血について

「採血」は、病気の診断や病状の把握のために必要な医療行為です。

当院採血室での採血は、**国家資格を有する「臨床検査技師」と「看護師」**が担当しております。十分な管理のもとに細心の注意を払って、実施させていただいております。しかし、時には「採血針を刺しても採血できない場合」、「1回の採血で必要な血液量が採血できない場合」があります。その際には採血部位を変えて再度、採血させていただきますことをご了承くださいますようお願い申し上げます。また、稀に採血に伴う合併症が起きることがあります。これに関しては、「採血に伴う合併症」をお読みください。

以上の点をご了解の上、採血をお受けいただきますようお願い申し上げます。また、円滑に採血を行うために、患者さん皆様のご協力も必要となりますことを何卒ご理解ください。



採血を受けられる患者さんへのお願い

当院では、採血を「安全に」「間違いなく」行うため、次のことを確認させていただいております。ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

ご本人確認、診察券の確認

「患者間違い防止」のため、診察券の確認とご自身のお名前をお伺いしております。

採血後の止血帯使用

採血した後に血が止まりにくかったり、跡が青くなったりすることがあります。採血後 5 分以上、採血したところを絆創膏の上から止血バンドで圧迫させていただきます。ご自身で押さえる場合は、採血担当スタッフにお申し出ください。



下記に該当する方は、採血担当スタッフにお申し出ください

- 採血時にご気分の悪くなられたことがある方
- 消毒薬（アルコール）や手袋（ラテックス）などにアレルギーをお持ちの方
- 血液をさらさらにするお薬（抗凝固薬、抗血小板薬）を服用中の方
- 血液透析中の方
- 乳房切除手術を受けられた方
- その他、採血に関してご希望や不安な点のある方

その他、採血時のご希望、ご不明な点などは、お気軽に採血担当者にお聞きください。また、詳しい検査項目や検査結果については、担当医にご相談ください。

採血に伴う合併症

「採血」は、基本的には安全な手技で、合併症を起こすことは極めて少なく、軽症なものが多いとされています。しかし、ごく稀に次のようなことが起きる場合があります。

◆ 止血困難・皮下血腫（青あざ）

採血後の不十分な止血操作などが主な原因です。採血部位を十分に圧迫（押さえて）止血していただきますようお願いいたします。

※ 血が止まりにくい方はお申し出ください。

◆ アレルギー

採血時の消毒薬やスタッフの手袋（ラテックス）などで、かゆみや発疹をはじめとするアレルギー症状がでることがあります。

※ アレルギーをお持ちの方はお申し出ください。

◆ 神経損傷

非常に稀ですが、神経を損傷することがあります。

採血後も手指へ広がる痛み・しびれなどが持続する場合はお申し出ください。

◆ 血管迷走神経反応

神経が興奮し急激に血圧が下がるため、めまい、気分不快感、意識消失などを引き起こすことがあります。心理的に緊張、不安が強いと起こりやすいとされています。

※ 採血中に気分が悪くなられた場合は、すぐにお申し出ください。

※ ベッドでの採血を希望される方はお申し出ください。

これらの合併症が起きた際には最善の処置を行います。合併症についてわからないことがございましたら、担当医または採血担当スタッフにお尋ねください。

(公財) 心臓血管研究所付属病院
臨床検査室・医療安全管理室